

2017年度第1回教育課程編成委員会議事録

(トラベル科・鉄道科・テーマパーク科・エアライン科・語学集中科・ホテル科・ブライダル科・デュアル科)

日時	2017年8月2日(水)	場所	8号館3F ホテル実習室	進行	矢口	記録	足澤
出席者	<p>企業側 (9名)</p> <p>【トラベル・テーマパーク・鉄道】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石井光彦氏 (株式会社 旅行綜研 代表取締役) ・有賀義信氏 (一般社団法人日本旅行業協会関東支部千葉県地区委員会 委員長) ・山口晋司氏 (千葉都市モノレール株式会社 総務部次長) ・酒井大之氏 (東日観光株式会社船橋支店 支店長) <p>【テーマパーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤弘美氏 (イオンモールキッズドリーム合同会社 マネージャー) <p>【エアライン・語学集中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鈴木 繁氏 (株式会社 ジャッツ成田空港事務所 副所長) ・松本克己氏 (一般財団法人成田国際空港振興協会 総務部総務課課長) <p>【ホテル・ブライダル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・國府昭義氏 (シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル 人事総務部長) ・飛田和子氏 (公益社団法人日本ブライダル文化振興協会 人材育成委員会 委員) <p>学校側 (11名)</p> <p>瀧・矢口・足澤・竹ノ谷・湊・北原・澤田・小川・矢野・石神・茂野</p>						
議事録	<p>【全体会】</p> <p>1. 校長挨拶 (瀧)</p> <p>昨今、マスコミを通して、大阪の学園問題の話題が上ることが多いが、こうした大人達のやりとりを見て、「若者は何を思うのか。」と教育に携わる人間として考えることがある。専門学校の教育とは学校だけでは成就せず、企業と連携をしないと成立はしない。今後も企業の方々のご協力を賜りたい。卒業した学生の離職率を見ていると、3年以内で就職先を辞めている学生が多いと実感している。企業様の率直なご意見を伺い、活発な意見交換の場としたい。</p> <p>2. 新任メンバーご紹介 (矢口)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人 日本旅行業協会 関東支部 千葉県地区委員会 有賀 義信氏 ・シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル 國府 昭義氏 ・イオンモールキッズドリーム合同会社 伊藤 弘美氏 <p>3. 配布資料、及び、就任承諾書の確認 (矢口)</p> <p>4. 情報公開について (矢口)</p> <p>委員会メンバー皆様に議事録を事前確認いただいた上で、弊社 HP に公開させていただくこととなりますのでご承知頂きたい。</p> <p>5. 全体会「2018年カリキュラム 共通科目」について</p> <p>〈全科共通科目について〉</p> <p>矢口 : 教育の基本方針として掲げているのが、「ホスピタリティ」、「臨機応変」、「国際感覚」、「即戦力」、「挑戦」としている。逞しい人材を育てる=自立へつながる。</p> <p>共通科目の一つとして、「パソコン」があるが、普段から携帯電話が必需品となっている為、</p>						

タブレットは使えるが、キーボードを扱えない学生が増えている。

〈内定後の教育について〉

矢口 : 現在、企業からの内定を頂戴するのが、1年後期から2年前期へと例年と比べ、時期が早まっている。内定が出始めると学生が油断してしまう傾向にあり、特に、2年前期における指導が必要となる。

〈職業人の育成について〉

矢口 : 就職担当職員が「キャリアデザイン」という科目を担当している。

竹ノ谷 : 「キャリアデザイン」とは、働くということはどういうことか、を学生に理解してもらうことを目的としている。LIFOは、『LIFOサーベイ』という自己診断を中核とした、人の強みに焦点をあて、強みを活かすための方法論(プログラム)。自分の「強み」、「弱み」を自己分析し、自分と合わない人とは、どういう性格なのか?その人との対応の仕方をどうすべきかなどを学ばせている。1年前期でプログラム完了となった。学生自身が「前向きになれた」との声があり、ある程度の成果はあったと考えている。

〈意見交換〉

山口氏 : 「ゆとり教育」を受けた最近の新入社員をみると、昭和世代の感覚とは異なりを感じる。自分から何かをするという意識が低い。(上長として)指導をすると、謝罪はするものの、次につながりづらい。成長力が乏しい。常識から指導をしないといけない人材がいる。

國府氏 : 全科共通科目の一つとして、「IQ(知能指数)」ではなく、「EQ(心の知能指数)」の仕組を学ばせるのはどうか。Word、Excelのみならず、求めているものとして、SNSのスキルを期待したい。例えば、フォトジェニックな撮り方、Facebookの「いいね」の集め方等。一方で、Webばかりに頼っていると、自分の好きなことしか集めない危険性もある。「情報を集める力」=新聞や自分の引き出しを増やすことが必要だと感じている。

また、自身(自分)で「考える力」を養う授業があっても良いのでは。現場でも言われたことはするが、自分から行動に起こさない若手社員が多い。学生時代にイベント制作や辛い経験をすることで自信にもつながるのではないかと感じる。

小川 : ブライダル科では、「イベントプロモーション」という科目で、社会の厳しさ=上下関係ではなく、フラットな関係性を大切にしており、イベントを創り上げる楽しさを感じられる授業運営を行っている。

矢口 : 学生にSNSの規制をかけていたが、新たな発想を聞かせていただいた。

矢口 : 「卒業研究」という名のもと、学生生活の集大成として卒業論文を作成させている。今年から近隣の図書館を有効利用している。

有賀氏 : 卒業生の離職率が高いとのことであったが、学校として離職理由の分析をしているのか。

竹ノ谷 : 現時点で正確な数字としての分析はしていない。これまでは、「夢を叶えるため」であったが、最近では、(国からの教育要請もあり)職場に入ってから指導も行うようにしている。

※退職願いをLINEで上長に申し出た学生もいた事例を紹介

瀧 : 卒業生の離職に関する追跡調査は行っていない。いかに辞めないか。職業意識を持たせることをテーマとして科目構成をしている。

酒井氏 : 人間力はどの企業でも必要。学校だけに期待しているのではなく、企業でも教育をしなければならぬと感じる。

石井氏 : 「教育」と「職業」がマッチングすることが1番望ましい。

学んだことが具現化されることが理想であるが、実際の現場で活かせられるとは限らない。

現場にはさまざまな職種があり、どのような職種にも対応できる「適応力」を身につけられると良いと思う。

矢口 : これまでに皆様から頂戴しましたご意見を少しずつではありますが、履修科目として取り入れて

いる。

トラベル科、鉄道科・・・「日本の作法と文化」、ブライダル科・・・「Wedding English」
灌：皆様の貴重なご意見を伺いたく、改めて（ご意見を集約する）フォーマットを送付する予定。
忌憚のないご意見をいただけたらありがたい。

【分科会】 トラベル科・鉄道科・デュアル科

1. 次のプログラムが後期に行われる事を説明。（内容説明として前回の説明を引用）

「日本の作法と文化」

日本の作法と文化については、作法と文化、日本の四季のイベントを通じて正しい知識を習得し、日本の文化を学ぶ。ブライダル科にて「作法と文化」の教鞭をされている先生に授業を依頼し遂行。

「日本の食文化」

伝統料理と和食が、世界無形文化遺産となっている事を鑑み、正しく理解する。

また、観光の観点から見直し、どんな所を外国人の方に紹介すれば良いのか等を考える。

「English Communication」

身振り手振りでも現場で伝わる英語を目指す、会話を中心とした授業とする。

他の授業との違いについて、Travel English や Station English は、それぞれの業界に特化した、お客様対応の英語ですが、この授業は話題のニュースなどをとりあげ話し合ったりする授業となる。

只隈氏：まずは英語に慣れることを目指す授業でもある。※この授業は、日本語禁止などの制約を設けた方がよい。

「パソコンスキル」

現在1年生前期にあるが、習得まで至らない。旅行企画の授業などでパワーポイントを利用するので、プレゼン資料など作成できるレベルにする。また、就職後は、職場にてパソコンを使う機会が増えるため、基本的なドキュメント作成も行えるように指導する。

2. 学科名称について

竹ノ谷：前回の話し合いでご意見をいただき、「観光」というのがキーワードになることから観光という言葉を入れる。大学等でも旅行などの学部名がなく、観光学部などになる。2019年度の募集から観光科トラベルコースとして進める予定。また、ツアーコンダクターコースで検索されることもあったが、実際の学生数は少ない。その部分も1本にまとめて、観光科トラベルコースで募集を検討。共通科目や細かい部分で何かあればご意見をいただければと思います。

3. 科目について

酒井氏：キャリアデザインを取り入れたのはいいと思います。

竹ノ谷：学事課より就職ガイドという言葉のご指摘を受け、既存プログラムを統合し、キャリアデザインと名称変更。大学でもキャリアデザインと名の授業がある。就職担当が行う授業となっている。

酒井氏：就職担当の先生は、企業先と連絡をとり、状況や厳しさを知っているので直接学生に伝わるので良いと思う。

山口氏：専門科目で聞きたい。インバウンドの授業が鉄道にない、ディベート入門というのだけが鉄道にあるが、その理由は？

竹ノ谷：コミュニケーション能力を向上させる意味で鉄道にいている。また共通科目のグループコミュニケーションもあるが、鉄道はそれプラスという意味合いでディベートを入れている。

矢野：トラベルの方が外国人と接する場面が多いので、試験的に観光総合の学生などを交えて取り入れた。鉄道コースにインバウンドを取り入れていないのは、外国語などに拒否反応を示す子もいる

ため。しかし、今後はオリンピックも控えており益々訪日が増えているので、鉄道コースにも導入を検討している。

山口氏：トラベル科のようなレベルでなくても、外国の方々への接する部分として必要と思うので入れてもらいたい。

竹ノ谷：1科目でなくても、4～5週だけでもそのような授業を入れることも検討したい。

立石：接遇マナーと言う授業があるので、そのような授業でもインバウンドを検討したい。
→導入する方向で次年度は検討する

山口氏：すごくハードなカリキュラムですね。

竹ノ谷：9月、10月までの授業は、国家試験に向けた授業となる。2年生になると就活寄りとなる。
2年後期は卒業できれば良いとの雰囲気が漂い、正味1年が実質勉強できる期間のような雰囲気になっている。

山口氏：1年の後期位から実習に行かれる方はいるのですか。

竹ノ谷：鉄道は入学してから駅の実習に入る学生もいる。あとは国家試験の終わった後や冬休みになる。
鉄道トラベルだけが、実習に行くのが遅い。

山口氏：単位数はどのように

竹ノ谷：基本は50分1コマで15回授業を行って1単位としている。他の学校では、90分授業で2単位としている学校が多い。授業時間は変わらないが、科目数を精査して調整しようとしている。鉄道は、鉄道交通サービスとの名称になる。これはある方から今後はバスが伸びると言う言い、バスという言葉を入れず、フェリーやクルーズなどにも対応できるように交通サービスとした。昨年ぐらいからバス会社からオファーをいただいている。

千葉市から路線バスや千葉モノレールについて山口さんに話はありますか。

山口氏：千葉は9社バス会社が入っている。路線は市の政策でなくバス会社で構築されている。

バスとの連携は上手くいっていない、というか力を入れていない。高齢者の方に対しては駅でなくその場で拾えることが重要課題となっている。

竹ノ谷：今年はバス会社からの求人もあり、内定者も出ている。今後も増える可能性がある。

有賀氏：専門科目について。特にトラベルが観光へということですが、専門学校は即戦力と認識している。トラベル科のカリキュラムを拝見して、座学知識の詰込みが多いように見える。
資格取得の観点からは、このようになるでしょう。しかし、国家試験の合格率とカリキュラムが必ずしも合っていないように思われる。そうであるならば、現場では国家試験よりむしろ業務知識や経験を積み即戦力としての方が重要。

また、SNSなど個人情報の意識が非常に希薄。どのような事が会社にとり痛手になるかなど会社に入る手前で教え込むことが必要ではないかと思う。専門学校から来た社員に聞くと資格取得のための授業だったと云うことを聞くので、もっと根本的な仕事上で必要なことを教えるのも重要かと思う。

竹ノ谷：SNSなどに関しては入学時や実習に行く時にもしっかりと教えている。

当校でも、もう少し重要性を伝えるように取り組んでいこうと思う。また旅行会社の不祥事で、保護者から旅行業界について聞かれることもあるが、「職業とキャリア」の授業内で学生に、その辺は伝えている。

有賀氏：2年生のいよいよ社会人になるという時期に頻度を上げて教えこむというのが良いと思う。

立石：資格を考えると今のカリキュラムになるが、総合は現場レベルではどれくらい求められるのか。または国内は最低保持していたとして総合など、資格はどれくらい採用時重要視するのか。

有賀氏：誤解の無いように。私は見ていません。総合は会社に入ってから取る資格と思っている。

入社前に持っている「凄いな」とは思うけど。あくまでも私見だが、資格試験よりも実務性、人間性が必要である。

酒井氏：専門学校生としては資格を取得した方が良い。それが専門学校で頑張ってきた証し、と思う。

1年次は国内旅行業務取扱管理者を取得することに徹して、2年次は人間力にカリキュラムをシフトするような思い切った改革が必要ではないのか。まずは学生を集めることが重要。

竹ノ谷：マーケットが縮小していることも事実。希望者がいないのが事実。高校の先生方もトラベルをすすめない。大学と競合しており高校の先生は、トラベルであれば大学を進めている。トラベルは、そのような背景があり難しい。都内のある学校では資格対策に特化している。企業の方も、最低国内旅行業務取扱管理者を持っていけば良いとなると、もう少しカリキュラムを人間力に持っていくことは可能と思われるので、少し考えたい。

酒井氏：高校生がトラベルを選択しない理由というのは、旅行の仕事のイメージがない。中高生も一緒に旅行へ行っているにも関わらず添乗員に気づかない事がある。そのためイメージが沸かないように思う。都内の学校は国家試験対策に特化したプログラムで良いと思う、この学校は思い切った改革をして業界の知識プラス、人間力がある学生を育てるといったやり方で学生が集まると思う。業界知識と人間力を兼ね備えた学生なら、多くの企業がその学生が欲しくなる。資格持っていないより、持っている方がいいが、資格だけで仕事は図れない。

竹ノ谷：ライセンスコース、ビジネスコースが以前あった。結果として絶対数は変わらなかった。ライセンスコースとビジネスコースの数から運営が難しく廃止した。総合旅行業務取扱管理者を少し軽くしていいと言う意見は検討の余地がある。

酒井氏：ここまでトラベルの学生数が縮小しているので、思い切った改革が必要。

山口氏：企業が求めている人材は、即戦力。就職率だけ見てこの学校に来る学生などは、資格なども考えず、目指す職業意識が低いのかも。この学校を卒業した学生は非常に素直で良い学生が多い。それをもっとうまく伸ばせればと思う。

竹ノ谷：有賀様、なにか学生に感じることはありますか

有賀氏：競争意識が薄い。向上心やライバル心が希薄に感じる。大学では教えられないが、専門学校であれば教えられると思う。

矢野：私の授業では、得点のTOP10の発表や資格取得数ランキングなどを行っている。それにより奮起している学生も見受けられる。

竹ノ谷：大学には行けるけど経済的な面でいけない学生や、大学に合格できない学生など混在しており、大学進学など諦めてきた学生など色々いますので、その辺をどのようにフォローしていくかも重要。

山口氏：やはり面接では、その人の人的魅力が重要。そこを鍛えてほしい。

酒井氏：この学校の学生はとても良い学生が多く、伸ばしがいがある。ぜひ人間力のある学生指導をして欲しい。

【分科会】 テーマパーク科

1. 共通科目について

茂野：前半でおこなった共通科目について、ご意見があったら伺いたい。

伊藤氏：学校ではパソコン技術としてエクセル・ワード以外にもビジネスとしてどこまで教えているのか。SNSも含めて学校で教えてほしい。当社ではデスクワークは少ないが、最近ではパーク内でタブレットを使用し、個人情報（名前・顔写真）を扱う仕事がある。

茂野：SNSについての注意事項などは企業実習前に指導している。パソコン授業でもSNSの取り扱いを行っている。当校のカリキュラムでパワーポイントを制作する授業があるが、職場では使用度はあるか？

伊藤氏：職場では既にできあがったものの画像を放送するが、社内での制作は殆どない。

2. 2017年度カリキュラムについて

茂野 : カンドゥー特別授業実施について確認したい。今年度5月、夏季実習前にカンドゥー内施設での授業を実施した。授業内容については学生の満足度が高く、今後も継続をお願いしたい。また、次年度においては10名以上の学生を想定しているが、受入可能であるか。

伊藤氏 : 人数が多すぎると目が届かない場合があるので、座学と実技演習を分ける等、工夫して実施すれば受入可能である。

茂野 : 時期においては今回同様の5月の実施で問題はないか。

伊藤氏 : 実施時期としては5月の連休明けは繁忙期前なので問題はない。次年度、入学者確定後に人数も含め、連絡を頂ければ対応は可能である。

茂野 : 授業評価で使用した評価表はカンドゥー独自のもので異なっているが問題はないか。今年度に関しては言葉使い・身だしなみ等10項目をお願いした。

伊藤氏 : 評価項目は問題ないが、自己評価を入れ企業の評価を対比したものが良いと思う。また授業時では、貴校の学生にこだわらず、参加したのなら「何か少しでも持って帰ろう」という意欲が少ように思える。

茂野 : 再度、校内においても特別授業の参加意義を徹底したい。

3. 業界に求める人材について

茂野 : カンドゥーとして求めている人材は、どのような人材であるか。

伊藤氏 : 8月の夏休みおしごと感動体験(千葉市主催:2017年8月24日実施予定)に当社も参加するが、その際、貴校卒業生が自ら手を挙げて参加したいと申し出があった。当該卒業生においては昨年と同企画に学校代表として参加しており今年度は企業代表として参加する。最近の若者に欠けている「自らが考え、動く」という自主性を持った卒業生である。

また、今年度より貴校夜間部テーマパーク科の学生を、カンドゥー内のレストランに配属した。学生の配属先に関しては必ずしもレストランのスペシャリストを求めているわけではなく、意向としてはテーマパーク全体のスペシャリストとして勤務してもらいたい。求められる人材としては、どのような配属であってもテーマパークの職業意識を持って勤務できるような人間を求めたい。

4. 2018度カリキュラムについて

茂野 : 今後、専門科目のカリキュラム編成を考える上で、どのような能力が必要であるか。

伊藤氏 : 特にプレゼンテーション能力、アナウンス力等、人にアプローチする力を養ってもらいたい。また、人を引き付けるような話し方や技術を学んでほしい。

茂野 : 英語力に関してはどの程度のレベルが必要か。

伊藤氏 : アクティビティ(職業体験)においては英語でのご案内もあるので、ネイティブの従業員がいるが、まだまだ足りない状態である。

瀧 : 当校では英語や中国語で接客場面での会話を強化していきたい。

茂野 : 最近の新入社員のコミュニケーション能力についてはどうか。

伊藤氏 : コミュニケーションとれない社員も若干いる。学校だけではなく企業としても教育が必要である。

茂野 : 今年度のテーマパーク科学生の就職先はホテル・商業施設・レストランなど多岐にわたっている。サービス+パフォーマンス授業を導入し、卒業時にはサービスとパフォーマンスの兼ね備えた学生を社会に輩出したい。

【分科会】 エアライン科・語学集中科・デュアル科

1. 平成29年度4月以降入学者カリキュラムについて

湊 : 前回の分科会にて、平成29年度4月以降入学者カリキュラムの変更・追加点を報告した。

1年前期のみ終了したところなので、1年後期終了後に実施状況報告予定。

2. SNS について

湊 : エアライン業界はセキュリティが厳しいが、SNS の活用についてどう思われるか。

石井氏 : 過去の例では、VIP ハンドリングを SNS に UP し削除要請となる失敗あり。

業務上では、人材集めなどで Facebook を利用し、効果的だった。企業としての範疇で SNS 利用は大事だが、個人情報拡散など注意すべき点が多々ある。

鈴木氏 : 旅行パンフレットが出る前に、人気ブロガーにツアーに参加してもらい SNS に UP してもらおうという方法を実際に行った。個人情報等の問題はあがるが、ビジネスツールとしては力を入れたいところ。SNS 活用に際し、どのレベルが活用可否のボーダーラインなのかが難しい。

松本氏 : 過去の空港会社による SNS アップが原因で、相手先企業様との関係が滞っている状況あり。

企画に参加してくれるボランティア募集のため、SNS を利用している。企業として、SNS の活用はあって良いと思う。

湊 : 新人研修等で、SNS 利用についての注意や説明は行っているか。

鈴木氏 : 個人情報取り扱いの注意の中で、SNS についても説明を行っている。

湊 : 当校では、入学時に SNS の注意点について学生に伝えている。

エアライン科の学生には、企業訪問時の内容を SNS に UP しないようその都度伝えている。

矢口 : SNS の脅威については、継続的に指導が必要

3. 英語検定について

湊 : 各業種に分かれた受講コースとなっている「みんなの外国語検定」について、業界での認知度等どう思われるか。宿泊施設の仲居さんなどが、この検定を受けているとのこと。

石井氏 : 会社では TOEIC 中心。半年以内の TOEIC レベルをチェックしている。

松本氏 : この検定の認知度は低い。この検定が履歴書に書いてあると、情報検索することになると思う。会社では、TOEIC や英検を参考にしている。

鈴木氏 : 空港では、英語・中国語のセミナーを行っている。

4. 空港は、過去 5 年と今後 5 年でどのように変わっていくと思われるか。

石井氏 : 航空機ハンドリング=人手でないと、ビジネスが成り立たない。システムが機械化されても、人手は減っていない。国内線だと、全く人を介する事なく搭乗口に行くこともあるが、結局航空機ハンドリングをするには人が必要。

松本氏 : 空港で働く人が減っていくとは考えていない。インフォメーションカウンターに置いている検索端末でお客様が検索を行い、分からなかった部分をテレビ電話にてお答えしている。2019 夏より、スマートセキュリティの実施。お客様には、1 番最初にセキュリティ、その次にチェックインといった流れで搭乗して頂くシステム。保安検査の際、お客様に良い感じ方をしてもらう取り組みでもある。

鈴木氏 : 外資系航空会社の方曰く、システムの機械化で人材減ったかということそうではない。自動チェックイン機、荷物預かりのそばには人が必要。自宅でタグを出せるようになる時代が来る。スタッフ（人）に深い知識がなくても機械の誘導に従うことで手続きができる時代は来る。団体客の機械チェックイン時等で、案内要員としての仕事もある。インバウンド旅客については、行先を訪ねられたりすることも多く、機械には出来ない人の説明が必要となる。

矢口 : カーゴコースの更に充実させるために何か意見はないか。カーゴ事務より GH(グランドハンドリング)希望の学生が多いが、学校に GH の設備がない。高校生向けの説明会で、どんな魅力を出せばよいか。現役は難しいが、GH 経験がある方に講師として来て頂けたりはしないか。

湊 : GH 入門の授業内で、マーシャリング等の GH 業務を教わっているが、それ以外の授業はカーゴ事務の内容が多い。入学時の学生は、GH 希望者が多い。

松本氏：GHの仕事は幅広く、学生はどんな仕事をしたいと思っているのか。ジェットスターのように、1人でいろんな仕事が出来るといふ会社もある。GH女子が、5年前に比べると増えている。

矢口：現状の離職状況はどうか。

石井氏：空港のリクルートは厳しい、当社で言えば、4月入社が退職する夏過ぎ頃から補充としてまたリクルートが始まる。退職理由としては、シフト勤務が厳しい、介護等でフルタイムが厳しいという者もいる。同じ仕事内容、給与でも空港だとシフト勤務になるため、退職につながっている。同じ仕事内容であれば、空港での業務と空港外での業務は勤務時間に差があり、空港での24時間シフトが、日本の社会には合っていない気がする。

鈴木氏：若い年代の人が辞める理由に、シフト勤務で自宅と空港の往復のみとなりプライベートがないという者がいる。バブル期に一流企業に入社し、その後やりたい仕事に就きたいと思った人が退職後添乗員となるケースもある。

矢口：キャリアアップ考えての転職はどうか。

松本氏：インフォメーション業務でスキルアップし、エアライン業界への転職者もいる。語学力を身に付け、海外での仕事に転職する者もいる。

矢口：昔は、長いスパンで育てるといふ考え方だったが、今は短い期間で業務をこなせるようになる必要があるように思う。短い期間で業務が身に付かない者は離職につながる可能性もある。

鈴木氏：内定が決まってから、内定先企業にいる先輩と話せる機会があれば、入社前と入社後のミスマッチも防げると思う。

松本氏：専門学校生の方が、大学生よりも先輩・後輩のつながりが強い気がする。内定が出てから、OGからのフォローアップも行わせたいと思うし、卒業生の活用も行って頂きたいと思っている。

【分科会】 ホテル科・ブライダル科・デュアル科

1. 共通科目（全体会からの補足事項）

足澤：当校では必須とされる国家資格受験がなく、専門分野以外の各科共通科目を取り入れることが可能となる為、中村学園では当校がモデルケース的に行っている。

飛田氏：新人教育に関しては、基本的には企業側でしっかりと行うのは当然ではあるが、学生時代のフラットな環境で社会人としての基本的な知識を学ぶ必要性を理解してほしい。また、近年の新入社員は電話応対に対する抵抗感が強い為、電話が鳴っても取らない傾向にある。学校教育で一般的な電話応対が出来るようなカリキュラムがあると良いのでは。

國府氏：全体会でも話があったが、離職率を減らす取り組みとして、OB・OG訪問を行ってみてはどうか。訪問を通じて、訪問日時の確認連絡や、訪問時の会話などからビジネスマナーが身に着くのではないか。また、OB・OGからしても良い刺激となりお互いの成長につながる為、双方にメリットがあると考える。

2. 2017年度カリキュラム説明

澤田：専門必修科目全般的には、業界中心の授業をベースとしカリキュラム構成を行っている。業界との直接の関連性はないが、サービス介助士・チャイルドケアオブサーバー等の資格取得を必須としている。電話応対については、検定対策を含めカリキュラムには入れてはいるが、検定結果を含め学生自身が電話応対に対する必要性を理解していない状況である。また、昨年度より本会議にてご意見を頂いた「英語力強化」を図る為に取り入れた「TOEIC対策講座」は順調に成果を上げている。

-16年度6月17名受験 17年度6月15名受験（平均スコア 16年度272.6 17年度304.6）

足澤・小川：ブライダル科では、特に電話応対と言った授業はカリキュラムには無いが、「話し方入門Ⅰ・Ⅱ」の授業でプロの司会者による講義を行っている。

國府氏：電話応対を含め、ロールプレイを中心とした授業運営が効果的であると考え。その為必要とされる授業においては、積極的に取り入れ即戦力として活躍できるように育成して頂きたい。

海外のホテル学校では、簡単な調理を学ぶ環境が整っている。近年ホテル現場では、調理部門の採用が非常に厳しくなっている。多少の調理技術を学べるホテル学校が日本にあっても面白いのではないか。

今後の宿泊スタイルとしても需要が増えると予測される「民泊」についての仕組みや今後の動向など学ぶ授業を取り入れてみてはどうか。また、ブライダル科では今後のブライダルビジネスを考えるような授業を取り入れ、今後の業界を活性化させるような人材を育成できるような授業が必要と感じる。例としては SNS を有効活用とした、若年層が興味を持つ商品企画などが提案できるような人材の育成。

飛田氏：見たり、聞いたりするだけでなく、実際に体験することにより業界に対する理解も深まる。

最終的には、離職率を押さえる結果に繋がると考える。学校内で行う授業の他に、実際の現場で体験する機会を増やすことが必要ではないか。企業側の受け入れが困難な状況も多いかと思うが、出来る限りの協力はさせて頂きたい。

現在のカリキュラムにある「神前式研究」は非常に貴重な授業だと思う。キリスト教式が中心商品であるブライダル業界ではあるが、ウェディングプランナーの知識としては必要不可欠である。また、検定試験などでも神前結婚式の内容については多く出題されるため、必要な授業と考える。

以上